

修 士 論 文 要 旨

看護学専攻	母性看護学 分野	学籍番号 220609
		氏 名 辻 まどか
論文題目	ハイリスク産婦に対する分娩時の予防的ケアにむけた判断の様相 —周産期母子医療センターに就業する熟達助産師の懸念を中心に—	
キーワード	ハイリスク妊産婦、分娩時ケア、周産期母子医療センター、助産師の懸念	
<p>〈はじめに〉</p> <p>出産年齢の高年化によって、合併症を有するハイリスク妊産婦が増加しており、多くの助産師はハイリスク妊産婦のケアにあたっている。助産師は法令上正常分娩を専門としており、異常発生時には医師と協働・連携することが求められるが、そこには異常の有無の判断だけではなく、予防する関わりをおこなうことが内包される。そこで本研究は、医療管理のなかでの助産ケアに着目し、身体的ハイリスク産婦に対する分娩時のケアにあたって助産師が懸念することがらを明らかにすることを目的とする。</p> <p>〈方法〉</p> <p>周産期母子医療センターに就業する概ね10年以上の臨床経験を有する熟達した助産師8名に、身体的ハイリスク産婦に対する分娩時のケアにおいて懸念したことがらについて、半構成的面接を実施した。分析は、逐語録の意味内容のまとまりごとにコード化しサブカテゴリを抽出し、共通性と相違性にもとづいてカテゴリに階層化をおこなった。本研究は三重県立看護大学研究倫理審査会の承認を得て実施した（通知書番号212303）。</p> <p>〈結果〉</p> <p>分析の結果、114コードから28サブカテゴリ、11カテゴリが抽出され、【合併症および分娩進行における身体的リスクを懸念】【産婦が元来持っている心理社会的安定が脅かされることを懸念】【医療・助産ケア実施により新たに生じる産婦の負担を懸念】【医療・助産ケア実施における助産師としての職務遂行上の問題の発生を懸念】の4コアカテゴリに集約された。</p> <p>助産師の懸念することがらは多層的であり、産婦に由来し産婦に結果が生じることがらから、産婦を取りまく医療者に由来し医療者に生じる問題にいたるまで広がりがあることが明らかとなった。</p> <p>〈考察〉</p> <p>助産師は、分娩の進行により変化する【合併症および分娩進行における身体的リスクを懸念】し、かつ【産婦が元来持っている心理社会的安定が脅かされることを懸念】しており、身体的ハイリスク産婦であることで生じる産婦の身体と環境の変化とともに、産婦の患者役割が強調されることが産婦の主体性の低下や分娩体験の喪失につながりうることを懸念していた。</p> <p>また、身体的ハイリスク産婦には医療管理や助産ケアの必要が高いことから、【医療・助産ケア実施により新たに生じる産婦の負担を懸念】し、助産を含めた医療が容易に過剰になりうることに自覚的であり、慎重であるべきだとの姿勢をもっていた。</p> <p>さらに、医師の職責の範疇である医療管理のなかでの助産ケアにあたって、助産師としての職務範囲と信念を意識しながらみずからのふるまいやケアを柔軟に適応させなければならないことから、【医療・助産ケア実施における助産師としての職務遂行上の問題の発生を懸念】していた。</p> <p>ハイリスク産婦の分娩時のケアにおいて助産師は、身体的リスクの増大を含めた分娩の体験が、産婦の心理社会的安定を損ねてはならないことを重要視して助産ケアをおこなっていることが示唆された。</p>		